

CKJS だより

第61号

校長 松平 昭二

shoji_matsudaira@hotmail.co.jp

遊び — 今と昔

私の子ども時代を振り返り「遊び」について考えてみました。

私が子どもだった頃（ずいぶん昔ですが）も、今の子どもも遊びが好きなことに変わりはありません。遊びは、子どもにとってただ一つの自由な空間で、生命の次に大事なものです。だから、この遊びという自由を手に入れるためには子どもは本気で頑張ります。そのことでは今も昔も同じですが、その遊び方は全く変わってしまったようです。

日本でのことです。都心のある駅の近くで、ゲームセンターに二人の小学生が駆け込んで行きました。夜の9時頃です。何かかと思っていたら、10分余りして飛び出してきて駅の方へ走っていきました。おそらく、塾の帰りに電車が来るまでの寸暇を惜しんでの遊びだったようです。勉強を忘れての一瞬の自由を楽しんだのでしょう。60年前は塾などありません。その代わりに、家の仕事、手伝いが待っていました。この家の仕事から逃れてどう遊ぶかが、親との知恵比べでした。今の子どもは、勉強から逃れてどう遊ぶかが、腕の見せ所のように。どこか似ているようで、どこか違います。

私が子どもの頃は、4、5歳の小さい子から6年生まで一緒になって遊びました。本当は嫌だったのですが、やむを得なかったのです。というのは、小さい弟や妹の世話をすると、それが親への手伝いとなり遊びを許してくれたからです。遊びという自由と引き換えに、小さい子の面倒を嫌々ながら見ていたのです。

だから、小さい子が泣いてぐずり、家に帰ると言い出そうものなら必死で食い止めました。「小さい子の世話もできないのでは」と、遊びを取り上げられ家の仕事を押しつけられるからです。小さい子どもは、すぐに遊びに飽きて長続きしません。そのために、上級生は2、30分もすれば別の遊びに切り換えて、飽きないように小さい子のご機嫌を取ります。たくさん遊びを知っていることがリーダーの条件でした。今の子どもが、一日中一つの空間でテレビゲームという一つの遊びに熱中しているのとは大違いです。

昔は、遊びは「つくる」ものでした。竹馬に乗りたかったら、まず、竹馬を作らねばなりません。魚を釣りたかったら竹を切って釣り竿を用意し、鉛で重しを作り、そして、湿地や畑に行ってゴカイやミズを捕まえます。遊ぶためには、その何倍、何十倍の準備と努力をしなければなりません。時間をかけて作り出すのです。だから、遊びの名人は「もの」を創造する名人でもあったのです。

今は、遊びに準備や努力はほとんどいりません。ルールも道具もできあがっているのですから、ハードやソフトを買うお金さえあれば十分です。

教育的観点から見た場合、やはり昔の遊びの方がコミュニケーション能力や行動力、創意工夫を凝らす力など、社会への適応能力を高める要素を含んでいるように思えます。もっとも、今の子どもたちに簡便なゲームを与えたり、外で遊ぶ安全で自由な空間を奪ったりしているのは、誰あろう、昔の遊びで育った私たちであることも事実なのですが……。

